氏　　名	金　哲敏　（キン　テツビン）
本　　籍	中華人民共和国
学 位 の 種 類	博士（学術）
学 位 の 番 号	博乙第 19 号
学位授与の日付	2017 年 9 月 4 日
学位授与の要件	学位規則第４条第２項該当
学 位 論 文 題 目	中国の対外直接投資の発展経路と戦略指向
論 文 審 査 委 員	（主査）桜 美 林 大 学 教 授　劉　敬 文
	（副査）桜 美 林 大 学 教 授　石 田 高 生
	桜 美 林 大 学 教 授　小 松 出
	東 京 大 学 教 授　柳 田 辰 雄

論 文 審 査 報 告 書

論　文　目　次

序章　問題意識と研究方法 1
1.問題意識 1
2.研究目的と課題の設定 2
3.研究対象 3
4.研究方法 5
5.論文の構成 6

第１章　中国の「走出去」戦略の展開と要因 11

第 1 節　対外直接投資の定義 11
第 2 節　中国の IFDI の構造 13
1-2-1　中国の IFDI の推移 13
1-2-2　中国の IFDI の見直し 17
第 3 節「走出去」戦略の背景と政策指向 20
1-3-1　準備期(1979～1984 年) 21
1-3-2　形成期(1985～1991 年) 21
1-3-3　推進期(1992～2001 年) 22
1-3-4　加速期(2002 年～) 24
第 4 節　中国企業の「走出去」の要因 27
1-4-1　資源の隘路 27
1-4-2　国際収支不均衡 28
1-4-3　過剰生産力による貿易摩擦 28
1-4-4　知識・技術・ブランドの不足 29
1-4-5　労働力不足と労働コストの上昇 30
第 5 節「走出去」戦略に関する支援策と制度 30
1-5-1　課税減免制での支援 31
1-5-2　金融支援 31
1-5-3　情報の提供 32
1-5-4　認可手続の簡素化 33
1-5-4-1　国家発展委員会の海外投資の認可手続の簡素化 33
1-5-4-2　商務部の海外投資の認可手続の簡素直化 35
1-5-4-3　国家外貨管理局の海外投資の認可手続の簡潔化 37

第 2 章　後発国の OFDI へ理論的アプローチ 40
第 1 節　先発国の OFDI に関する理論 40
2-1-1　資本移動論 40
2-1-2　ハイマー・キンドルバーガーの独占的優位性理論 43
2-1-3　プロダクト・ライフ・サイクル理論 44
2-1-4　ダニングの折衷理論 45
第 2 節　発展途上国の OFDI に関する理論 47
2-2-1　技術の局地化理論 47
2-2-2　小規模技術論 49
第 3 節　中国の OFDI に関する先行研究 50
2-3-1　欧・米における先行研究 50
2-3-2　日本における先行研究 51
2-3-3　中国国内における先行研究 53
2-3-4　先行研究の限界及び本研究のフレームワーク 55

第 3 章　Dunning & Narula IDP5 段階モデルによる中国 OFDI の発展段階の分析 57
第 1 節　IDP5 段階モデルで中国への応用 57
第 2 節　先行研究レビュー 58
3-2-1 Dunning & Narula(1996)IDP5 段階モデル.....58
3-2-2 Dunning & Narula(1996)IDP5 段階モデルを応用した後継研究.....60
3-2-3　Dunning & Narula(1996)の IDP5 段階モデルを中国へ応用した先行研究.....62
第 3 節　Dunning & Narula(1996)IDP5 段階モデルの中国への応用計測分析 64
3-3-1　使用データの選択とデータ・ソース 64
3-3-2　IDP5 段階モデルの 3 つの計測式とその設定理由 66

第 4 章　中国の OFDI の地域分布の特徴.....73
第 1 節　急速に拡大している中国の OFDI 73
第 2 節　多元化したロケーション選択.....74
第 3 節　中国企業の地域別・国別 OFDI の状況.....80
4-3-1　アジア地域へ進出状況 80
4-3-2　ラテンアメリカへ進出状況 82
4-3-3　アフリカへ進出状況 85
4-3-4　ヨーロッパへ進出状況 87
4-3-5　北アメリカへ進出状況.....89
4-3-6　オセアニアへ進出状況 92
第 4 節　中国の OFDI の地域分布の特徴 94
4-4-1　OFDI 額の集中地域・国 94
4-4-2　中国の OFDI の地域的変化.....95

第 5 章　中国企業の OFDI の形態とパターン.....97
第 1 節　OFDI 業種別構成のアンバランスと成熟性.....97
第 2 節　中国企業の OFDI の形態 102
第 3 節　中国の OFDI のパターン 108
5-3-1　中国企業の OFDI のパターン.....108
5-3-2　中国企業による海外 M&A.....112

第 6 章　中国海洋石油有限公司(CNOOC Ltd).....117
－資源獲得型 OFDI－ 117
第 1 節　中国海洋石油有限公司の背景 117
第 2 節　中国国内のエネルギー事情.....120
6-2-1　中国経済の高度成長によるエネルギー消費の拡大と変化.....120
6-2-2　中国のエネルギー政策.....123
第 3 節　CNOOC Ltd の OFDI の展開.....124
6-3-1　アジア・オセアニア地域へ進出 125

6-3-2 アフリカ地域へ進出 126
6-3-3 北・南米地域へ進出 127
第 4 節 CNOOC Ltd の海外資源開発のステップアップ 129
第 5 節 CNOOC Ltd の財務分析 133

第 7 章 レノボ集団(聯想集団) 139
－経営資源獲得型 OFDI－ 139
第 1 節 レノボ集団の事業展開の背景 139
第 2 節 レノボ集団の IBM の PC 事業の買収 142
7-2-1 IBM の PC 事業の買収プロセス 142
7-2-2 レノボ集団と IBM の PC 業務買収協定の内容 143
7-2-3 IBM の PC 事業買収の融資方式 145
第 3 節 M&A による経営資源の獲得 148
7-3-1 M&A の展開による人材と技術の獲得 148
7-3-2 M&A の展開によるブランド獲得 152
7-3-3 M&A の展開による市場獲得 153
7-3-4 M&A によるグローバル企業へステップアップ 156
第 4 節 レノボ集団の財務分析 158

第 8 章 ファーウェイ(華為) 164
－海外 R&D 拠点構築型 OFDI－ 164
第 1 節 ファーウェイの企業背景 164
第 2 節 ファーウェイの海外進出 165
8-2-1 ファーウェイの国内市場から海外市場へ 165
8-2-2 ファーウェイの内部組織の変化 167
8-2-3 ファーウェイの株主構成の変化 170
8-2-4 ファーウェイの市場変化 172
第 3 節 ファーウェイの海外 R&D 構築 174
8-3-1 ファーウェイの海外 R&D 拠点の展開 175
8-3-2 ファーウェイの海外 R&D 拠点の拡大 176
8-3-3 ファーウェイの技術立社 178
第 4 節 ファーウェイの財務分析 181

終章 まとめと課題 187

参考文献 192

論　文　要　旨

21 世紀に入ってから、中国の対外貿易とともに対外直接投資も政府主導のもとで積極的に展開され、世界から注目を集めている。本論文は、中国の対外直接投資の戦略的展開に焦点を当て、経済学的アプローチによる発展経路および現状分析と経営学的アプローチによる戦略的課題を整合的に検証したものである。

本論文は、序章・終章および本論の 8 章から構成されている。第 1 章では、対外直接投資の定義、「走出去」戦略の背景と支援政策・制度および中国企業の戦略的課題を分析している。第 2 章においては、先進国、発展途上国、そして中国企業という 3 つの視点から後発国の対外直接投資への論理的アプローチを検証して、国家戦略の主導性、後発性の克服、中国国内市場の課題、中国企業の海外競争力の強化との絡み合いの中で、中国の対外直接投資の現状と課題を分析する際のフレームワークを提示している。

第 3 章で取り上げる中国対外直接投資の現状分析については、Dunning & Narula の対外直接投資 5 段階モデルを基準にして、中国の対外直接投資の発展段階を評価している。このモデルを用いた計測結果、2013 年に先進国でいう第 4 段階に入ったはずの中国対外直接投資は 2015 年になってはじめて当該段階の域に達していること、途上国型対外直接投資から転換したことを検証している。さらに中国が「世界の工場」から「世界の市場」に成長していることは第 4 段階入りを遅らせた要因の 1 つであると明らかにされている。

第 4 章の「中国の対外直接投資の地域的分布の特徴」で、中国の対外直接投資の急速な拡大を渉猟したうえ、ロケーションの選択においては、血縁・地縁、文化的近似性のほかに、香港やバージン諸島などタックスヘイブン地域を仲介した「逆方向投資」、つまり外資優遇政策を受けるための本国への逆方向の投資が特徴的であること、また投資の地域的選択はアジアを中心とする発展途上国から先進国地域へと変化していること、などを検証している。

第 5 章は、中国企業の対外直接投資の形態とパターンを取り上げ、業種別、地域別、投資主体の所有形態別、本部の所在地域別、中央所属と地方所属企業別をベースに投資構造の特徴を考察している。また、先行研究を踏まえつつも先進国と発展途上国とでは、投資パターンを異にしていることを検証し、発展途上国へのグリーンフィールド投資、先進国・地域への市場・ブランド獲得投資、海外で最先端技術・人材獲得投資を論じたうえ、中国の対外直接投資の特徴の抽出、中国企業による海外 M&A の重要性を検証している。

第 6 章から第 8 章にかけては、中国の代表的企業 3 社、天然資源獲得型対外直接投資のケースとしての国資企業の中国海洋石油有限公司（CNOOC Ltd）、経営資源獲得型対外直接投資のケースとしての民営上場企業のレノボ集団（聯想）、海外 R&D 拠点構築型対外直接投資のケースとしての民営未上場企業のファーウェイ（華為）を選択し、各企業の戦略的課題と具体的な取り組み、そして財務諸表分析を中心にして対外直接投資の実証的評価が検証されている。

最後に、序章で提示された研究目的に呼応する形で、本論のまとめと課題の 2 つに分け、

終章をまとめている。まとめにおいては、政府主導、伝統理論の限界、Dunning & Narula の対外直接投資 5 段階モデルの中国応用の有効性と限界、経営資源獲得型対外直接投資の中心的な役割、企業事例研究の示唆という 5 つをもって結ばれている。

論文審査要旨

本論文は、Dunning & Narula の直接投資の 5 段階モデルを中国の対外直接投資の発展段階を評価するための計測方法として利用したこと、次に、5 段階モデルを 2001～2015 年の中国の対外直接投資の統計において検証し、段階的評価を与えたことは興味深く高く評価できる。さらにこの計測結果から、2013～2015 年の中国の対外直接投資が「発展途上国型から転換」したとの結論は、研究史上意義を持つと評価される。

中国の直接投資の特徴とタイプ論に関して、構造的な検証を踏まえ、中国企業の事例の研究を通じて、特徴と戦略的な目標を実証的に裏付けている。この事例研究の成果は、本論文の骨格的な枠組みとなっており、独創的な優位性を持っていると判断される。中国企業の対外直接投資の実証性は、①企業選択においては、国資企業、民営上場企業、民営未上場企業というバランスが図られていること、②企業事例を研究するにあたっては、全般的な論述ではなく、それぞれ天然資源獲得型、海外経営資源獲得型、海外 R&D 拠点構築型というように、各企業の対外直接投資の戦略的指向及びその取り組みを中心に展開されている。よって、本論文のオリジナリティの一端をなしているものと認められる。

総括的には、中国の対外直接投資について、経済学的アプローチによる現状分析、経営学的アプローチによる戦略的指向を整合的に検証した学際的な研究として、論理性、独創性、労作性があり、自立的な研究活動が行われていると判断でき、審査員全員一致で合格と判定した。

口頭審査要旨

2017 年 7 月 10 日 12 時 50 分から公開による口頭試問が実施された。論文要旨に関する口頭発表、論文および口頭発表に関する質疑応答、主査・副査による非公開の合否判定会議が行われた。公開試問会場には、審査員以外に大学院生や大学生らの参加もあった。

質疑応答においては、まず、第 2 次試問から最終試問までの間に、審査員から提示された諸問題・課題への対応について説明を求められた。その後、論文および口頭発表については、Dunning & Narula の直接投資 5 段階モデルを適用した検証結果、海外の経営資源の戦略的獲得のプロセス、獲得した経営資源の融合とその活用に関する取り組みの視点が評価された。また、後発国企業のキャッチアップにおけるレノボ（聯想）モデルとファーウェイ（華為）モデルの優劣などに質問とコメントがなされ、いずれについても納得のいく説明、明快な回答が行われた。

審査の結果、論文の論理性、独創性、労作性、とくに2次試問後の努力などを高く評価しうるものと認めている。日本語表記の明瞭さなど修正を求められる箇所があるが、論文の価値を覆すほどの問題ではないと判断した。

以上により、本論文は博士論文の水準に達していると、審査員全員一致で合格と判定した。